

高知県小児糖尿病サマーキャンプについて

2階東病棟

○ 北村 美鈴 川島 美保 武市 光世 水間美智子

I. はじめに

インスリンが発見されて4年後の1925年に、世界で初めての糖尿病サマーキャンプがアメリカのデトロイトで行われた。日本では1963年に初めての糖尿病サマーキャンプが行われ、現在では全国約40ヶ所で開催され、約1200名の子どもたちが参加している。この小児糖尿病サマーキャンプでは、子どもたちの糖尿病の自己管理能力を高め、病気に負けず、心身ともに積極的な生き方を促すために、医師、看護者、栄養士、ボランティアなどがチームで関わっている。

高知県でもこのサマーキャンプが行われており、当病棟からは第1回目よりスタッフとして参加している。今回はこの高知県小児糖尿病サマーキャンプの概要および看護者の役割について報告する。

II. 高知県小児糖尿病サマーキャンプの概要

1. サマーキャンプの歴史

今年で12回目を迎えた。以前は愛媛県と合同キャンプを行っていたが、1990年8月からは高知県単独で年1回の割合で開催している。

2. キャンプの日程

毎年8月に3～4泊の予定で行っている。昨年は8月11日～8月15日までの4泊5日であった。

3. キャンプ開催地

キャンプ地は主に高知県内であるが、徳島県、香川県でも1回ずつ開催している。昨年は香北青少年の家・芸西村の家で開催した。平成13年度は兵庫県（淡路島）を予定している。

4. キャンパーの内訳

キャンパーは高知医科大学医学部附属病院、県立中央病院、高知市民病院、高知赤十字病院、細木病院、幡多けんみん病院、香川県三豊総合病院で外来フォローされている患児。毎年15～20名の参加がある。キャンパーの年齢は3歳から高校生までで、キャンプ卒業者はボランティアとして5～6名参加している。年少者も母親の付き添いはなく患児一人で参加している。

5. キャンパーの糖尿病タイプ

9割がⅠ型糖尿病であるが、2～3年前からⅡ型（肥満児）が1～2名参加している。

6. キャンプのスタッフ

医師、看護婦、栄養士、ボランティアがスタッフとして参加している。

看護婦は当院2階東病棟と県立中央病院の看護婦が参加している。

III. 小児糖尿病サマーキャンプの目的

- ① 教育
- ② コントロール入院に代るもの
- ③ 社会心理的な適応を体得させる
- ④ コミュニケーションの場の提供
- ⑤ 楽しみの提供
- ⑥ 社会への啓蒙

IV. 小児糖尿病サマーキャンプでの看護婦の役割

- ① キャンパーの日常生活の管理
- ② キャンパーの異常の早期発見
- ③ キャンパーの精神的サポート
- ④ 血糖測定、自己注射のチェックおよび指導
- ⑤ 看護学生の指導